平成２７年度「ふくしまの未来を担う高校生海外研修支援事業」実施報告書

会津若松ザベリオ学園高等学校

実施期間・参加人数・滞在都市・現地交流校について

平成２８年３月１２日～３月２４日までの１３日間、１～２年生４１名が２グループに分かれ、イギリスのコヴェントリーとスワネッジにホームステイした。コヴェントリーに滞在した生徒たちはキングヘンリー８世スクールと交流し、スワネッジに滞在した生徒たちはインターナショナルカレッジ“ハローハウス”にて研修した。

実施概要について

＜コヴェントリー＞

生徒は基本的に２名ずつホストファミリー宅にお世話になった。平日の昼はホスト校で基本的な英会話やイギリスの歴史・文化について学習した。そのうちの２日は、それぞれロンドンとオックスフォードに出向いて研修を行った。週末には生徒はホストファミリー宅で過ごし、交流を深めるとともに、英語でのコミュニケーションの力を高めた。

＜スワネッジ＞

イギリス南部のドーセット州スワネッジにある語学学校 Harrow House（ハローハウス）にて、平日は９時から１２時半までに１コマ９０分間の授業を午前中に２コマ受講し、午後は１３時半から１７時まで様々なアクティビティを行った。授業後は１７時半から１８時半までの放課後のスポーツなどのクラブ活動に希望者は参加した。授業やクラブ活動の後は、各家庭に２名ずつ（２名のみ、１名で）ホームステイをし、各家庭内でホストファミリーと日本から持ち込んだ文化を紹介するためのお土産を用いて交流をおこなった。土曜日にはロンドン研修で、ウェストミンスター寺院と大英博物館の見学を行い、日曜日には、隣町のボーンマスにて半日観光を行った。日曜日の午前中はホストファミリーと過ごす時間として、日本食を振る舞ったり、ホストファミリーの職場見学をさせてもらったり、各自が有意義な時間を過ごした。

福島の現状発信や現地におけるエネルギー学習について

別紙１、２参照

実施後の成果について

＜コヴェントリー＞

ホスト校の先生方や生徒の献身的なサポート、およびホストファミリーの助けもあり、生徒たちは楽しく有意義に研修を終えることができた。また福島県の現状と復興への取り組みについても、十分に理解してもらえたようである。現地は、雪も降らず地震などの災害もないため、ホスト校の生徒たちに関心を持ってもらえた。

＜スワネッジ＞

ホストファミリーと約９日間を過ごしながら英語の授業を受ける毎日を送ったことで自然と耳が英語を捉えるようになり、自分から英語を口にすることができるようになっていった。何よりも、自分から努力して他人とコミュニケーションをとることが大切であるという交流の神髄とも言うべきことに自発的に気付いた生徒も多くおり、またそれを実践しようとする様子が見られたことが成果であった。

別紙１（会津若松ザベリオ学園高等学校）

＜コヴェントリー＞

〇福島の発信について
（１）研修の第７日目（3/18（金））に、７年生の学年集会でホスト校の生徒・教員に対し、次の内容についてプレゼンテーションを行った。
　a）東日本大震災における被害状況
　b）会津地方の再生エネルギー（新エネルギー）
　津波については写真やグラフを用いて、プロジェクタを使ってできるだけ視覚に訴える形で説明を行った。
　新エネルギーの部分では、やや専門用語が児童たちにとっては難しかった部分もあったが、写真で説明したことで、集まった児童の興味・関心を引きつけることができた。

（２）同日（3/18（金））に、ホスト校に併設の幼稚園の集会で、児童・教員に対し、次の内容についてプレゼンテーションを行った。
　a）会津地方について（会津で有名なもの）
　　大俵引きやあかべこを取り上げ、写真を使って説明をした。クイズ形式で問いかける形にしたので、幼い子供たちの興味を大いに惹いた。
　　その後、各教室に分かれ、子供たちに日本の文化である、書道と折り紙を教えた。

（３）研修の第１１日目（3/22（火））のさよならパーティの際に、日本の武道についてのプレゼンテーションを行った。実際に武道を演武することはできなかったが、画像を用いて分かりやすく説明した。

　〇環境問題についてのリサーチおよびディスカッション
　研修の第４日目（3/15（火））と第７日目（3/18（金））の授業で、午前中に次の内容を取りあげ、コヴェントリーにおける省エネと環境に優しい取り組みについて学んだ。
　　a）公共交通のあり方について
　　b）ゴミの分別について
　　c）オーガニック商品について
　　3/19（土）・3/20（日）の週末を利用して、ホストファミリーに対し、環境問題についてインタビューをする課題に取り組んだ。

別紙２（会津若松ザベリオ学園高等学校）

＜スワネッジ＞

〇福島の現状を伝える活動

３月１６日（水）１５時半より、福島の現状を伝えるプレゼンテーションを行った。５名か６名で１班とし、４班がプレゼンテーションを行った。「震災の現場がどのような状況であったか」「福島県で行われている武道について」「会津の名産」「背あぶり山のウィンドファームについて」をテーマに、英語で説明を行った。

当日の昼休み１３頃から、学校の食堂に集まる授業クラスの異なる多くの他国の生徒に対して、プレゼンテーションの場所や時間、内容を宣伝して回り、プレゼンテーションを聞きに来てもらえるように努力した。実際には、声をかけた多くの生徒がプレゼンテーションを聞きに訪れ、また学校の先生（授業を担当する外国人教員）や現地スタッフも訪れ、約３０分の発表は盛況だった。より真剣に聞いてもらい、積極的に参加してもらうために、プレゼンテーションの最後にクイズを入れる工夫をこらした発表内容だったため、狙いどおりの成果となった。生徒も、英語で伝えられたことと、工夫が効果的であったことに自信を持った様子である。

〇現地におけるエネルギー学習等について

３月１６日（水）、午前中の授業で、習熟度別のクラスを合同にして、現在地元で問題になっている環境問題についてどのようなものがあり、それぞれが何を原因としているか話し合いを行った。その中で wonky vegetables（いびつな形の野菜）がイギリスでは積極的に各家庭が食卓に乗せること、食材の廃棄などを減らす努力が一般化していることを学んだ。その後、スワネッジの町の人がどのような環境への意識を持っているかを知るための質問を、５人程度で１班となって英語で質問を３つ考えた。中にはドイツとスロバキアの学生と同じ班になることを自ら望む生徒もおり、現地での授業への積極的な参加態度がうかがえた。